

授業日数205日で市民集会

条件整備をして、子どもたちに学びの意欲を！

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2010.12.3(金)
No.178

11月23日、さいたま市教組主催で、「授業日数205日以上問題を考える」市民集会がひらかれました。

最初に、山本悠子委員長が主催者あいさつをかねて、市民集会の意義と「205日」問題の経緯と概略を報告しました。市民集会はシンポジウムの形式で行われ、4人のパネラーからの発言、フロアーからの発言、最後にパネラーからの追加発言がありました。

パネラーは、小学生と中学生を持つ保護者、さいたま教育文化研究所の白鳥勲さん、京都市教職員組合副委員長の得丸浩一さん、さいたま市教職員組合伊藤新一書記長の4名です。

市教組から理由付けに矛盾

伊藤書記長は、まず11月11日に開かれた市立学校等校長管理研修会での教育長あいさつを紹介しました。教育長は「学習指導要領改訂で授業時数

が増え、現在の（授業）日数のままでは無理な改訂で、日数を変える以外にない。特に中学校で足りない」ので205日にした、と述べました。ところが、夏休みを短縮して授業日にする7月下旬は、中学校の部活の県大会が集中する時期で、教員と生徒が大会参加で自習になっているのが実態です。教育長の言う「中学校の授業時数確保」と矛盾すると指摘しました。

次に、年間授業時数の検証データとして市教委があげた小学校5年の年間授業時数に関する数字は、市内102校の中の1校の数字であることを示し、極めて恣意的としか言いようがない、として205日にする根拠がないことを強調しました。また、パブリックコメントを取らずに決定するのは、教育をないがしろにしている、と発言しました。



保護者から「もつと教職員を増やして」

保護者から、「205日」のことを知ったのは、9月1日に校長名で各家庭に配布された文書だったことが明らかにされました。

開校記念日が授業日になることには、多くの家庭では開校記念日を「ディズニランドの日」として親しまれてきたのに、残念だと語りました。

PTAの役員をしているので学校に行く機会があるという保護者は、クラスにもつと手をかけてもらいたい子がいるが、誰かがそのクラスに入ると、今度は人を奪われてしまつてクラスが出る。親から見ると、教職員の数が足りない、そちらの方が心配だ、と語りました。

研究者から「子どもを追い込んでいる教育」

白鳥さんは、授業日数205日問題の主眼が「学力」にあるとして、困難を抱えている生徒の多くは、個別指導を受けてこなかった、分らないことを分らないと言えなかった、「早くやれ」と言われ続けてきた「競争を強いられてきた」と述べました。

逆にそれらを生かして生徒に接し、学ぶ開放感、視野が広がった感じを持つと生徒は伸び、学び続ける。競争ではない学びが必要で、そんな教育を進めるには教育条件の整備が重要だと指摘しました。

京都市から「205日でゆとりは生まれぬ」

得丸さんは、2005年から京都市が授業日数を205日以上にしてきた経緯を紹介しました。当初は京都市の学校改革の切り札として2学期制が提案されます。「学校

裁量権の拡大」と称して5年前から205日になります。多くの学校で夏休みの終了を早める措置がとられ、今年一番早い学校は8月23日から学校が始まっています。

今、205日が導入されてどうなったか。学力対策が打ちだされ、夏休みの補習が増え、始業前のドリルタイム（中学校朝読書）がどの学校でも行われ、880円の保護者負担でテストがやられていると述べました。

今年行った京都市教組のアンケートから、「量をやれば質が上がると思っていること自体大きな間違い。京都の質の低さを表しているようなもの」という声を紹介しました。

「205日」導入から5年立つがゆとりは生まれぬ、トップダウンは教育になじまないと強調しました。

フロアー発言

フロアーからは、親から「暑い夏で子どもたちは大丈夫かな」の声が出ていることが出されました。児童の指導員からは205日の件について何も知らされていなかったこと、開校記念日は多くの児童で行事を組んでいて影響が心配されること、話されました。学校の養護教諭からは、「（市教委は）児童・生徒の健康と命をどう考えているのだろうか」と強い懸念が表明されました。今年の夏、学校で調べてみたところ、4階は38度、外は41度もあったとして、「熱中症が心配になる」と語りました。さらに普段の教職員の健康も心配で、普段の時間外勤務の割振り変更も取れなくなるのではないかと不安を語りました。

教育条件整備こそ重要

授業日を増やすのは一番安易なやり方です。30人学級など教育条件の整備が必要です。夏休み短縮は国連「子どもの権利委員会」第3回勧告で指摘している「子どもの情緒的幸福度の低さ」が強まるだけです。

205日では、学力はつきません。先生を増やして学ぶ魅力のある授業を作ることが求められています。



205日にしても、子どもの学力が上がるとは思えない。それよりも必要なのは、1クラスの人数を30人以下にすることだし、先生をもっと増やすことだと思います。205日にした京都市から大いに学ばなければならないと思います。いろんな立場からの発言を聞けば聞くほど、205日の授業日数がいかにひどいものか、根拠は何もない！ということを感じます。実際に学校にいる教職員や子どもから、205日についてアンケートをとって「実施が必要」という結果が出たら、実施してよ！！といたい。先生と子どもも「楽しい学校」にしなければ教育の効果は上がらないのではないかな。すでにかかっている京都市教組の得丸さんの資料および話、経験談はとても説得力がありました。パネラーの方の発言がそれぞれ違う立場からの話であったので各面から考えられ、いい機会になりました。(小学校教員)

特に京都市教組の得丸さんの話は興味深かったです。「学力対策」として出された205日が学力をつけないばかりでなく学校現場が過密化していくことがよく分かりました。(小学校教員)



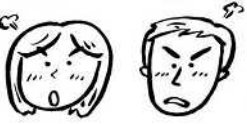
日々の忙しさの中でしょうがないかなと感じていたが、皆さんの話を聞いて、安易に205日以上が決められていて、子どもたちと教師によいところはないと感じた。205日でゆとりは生まれないという言葉が響いた。このことを他の先生方にも伝えていきたい。教育条件をよくしていくことの大切さを感じた。

四人の話を聞きながら深く考えさせられました。「手をつなぐ」ことの基本を実行したいと思いました。(保護者)



学校に今起きていることがわかりました。教員の皆さん本当にご苦労様です。私も近所の親の皆さんと今日の学びを伝えてゆきます。(66歳、市民)

我が子の時代に比べるとどうして今の子はこんなに学校にいなきゃいけないのかと思うことしばしばで、この集会に参加しました。そのわりには日本の子どもたちが幸福だとは思えません。子どもたちを取り巻く生活、学力の差は広がるばかりだと感じています。教育を取り巻く問題はほかにもいっぱいありますが私も一市民として応援します。(市民)



現状がとてもよくわかった。市や県、国という縦割りの行政が子どもたちとは関係ないところで動いていることに驚きました。さいたま市独自の教育予算を使ってでも、教育がよくなると良いなと思いました。(保護者)

参加者感想よい

「授業日数が205日以上」の問題点とその本質にはじめて触れ、憤りとこれを撤回させる運動の重要性を知りました。困難な中でさいたま市教組が運動を提起し、この問題を父母市民協同で互いに広げようとしていることに敬服しました。(教員OB)

さいたま市教組は、以下の取り組みを行います。

- 市民集会の報告集を作り関係機関等に普及します。さいたま市の教育を市民レベルで考え、取り組みを進める組織を結成するため、準備会を立ち上げます。市教委に以下の要求の実現を求めます。
1. 対外行事を減らすこと。
 2. 研究指定、研究委嘱を減らすこと。
 3. 市独自に少人数学級を実施すること。
 4. 特別教室にエアコンを設置すること。
 5. 週時数と短縮日程は学校の判断に任せること。
 6. フルタイムで働く教職員を増やすこと。
 7. 夏休み短縮、開校記念日の授業実施、土曜授業について、市民から意見を求めること。



[205日問題]何が問題なのか少しわかってきました。ありがとうございました。子どもたちの本物の学力をつけてあげたい、そして学校現場が先生も子どもも楽しい場になるようにしたいですね。日本の教育はどんどん逆行しているようにしか思えません。

